

自助・・・自らの命は自ら守る！

下呂市では、市内を流れる主流（１級）河川において、洪水（浸水）が起きたときに想定される浸水区域をマップにしてホームページ等で公開しています。（水害危険情報図、飛騨川浸水想定図マップ、土砂・洪水災害ハザードマップ等）

今回は、その区域がこういった条件で示されているかを見ていきましょう。

まずは、治水（河川整備目標・計画）の話から。洪水や溢水（いっすい…溢れ水）を防ぐためには、自然河川の整備が必要ですね。壁を立てたり土石を取って河床を下げたりしているのは、そのためです。

主流（１級）河川には、過去の降雨を参考にして、“この降雨量までは耐えられる河川にしよう”という整備目標や計画があり、それに従って整備が進められていきます。

『浸水の条件』

計画規模降雨（L1）、洪水浸水想定区域って何？

なにやら難しそうな文言ですが、簡単に言うと、河川の整備目標・計画で設定した降雨量※が、その河川に流れ込む区域に現状で降った場合に起こり得る洪水（浸水）のことです。

※飛騨川の場合は２日間の総雨量 331mm

最大降雨量（L2）、洪水浸水想定区域って何？

こちらは、何となく分かりそうですね。その河川周辺に、一定の計算条件を満たした降雨のうち最大の降雨量※が、その河川に流れ込む区域に現状で降った場合に起こり得る洪水（浸水）のことです。

※飛騨川の場合は２日間の総雨量 667mm

○洪水浸水想定区域とは？

降った雨が河川に染み出す時間＋溢水（いっすい）地点まで流れる時間＝洪水到達時間

この時間が経たとき、浸水する範囲と覚えてください。

浸水想定範囲は、こうしてマップ化されています。

